



育成センターだより

鹿児島市山下町6-1 TEL 227-1972

【12月の重点指導事項及び着眼点】

- 1 深夜はいかい・非行防止
深夜はいかい等の少年への声かけ及び関係機関等との連携
- 2 飲酒・喫煙防止
学校・地域・関係機関等の連携による声かけ及び啓発活動の推進（防犯教室ほか）

主体性を育てる



令和4年1月、日本経済団体連合会が「採用と大学改革への期待に関するアンケート」結果を公表しました。それによると、大卒者に特に期待する資質として最も多かったのが「主体性」(84.0%)でした。

「主体性」とは、「自ら考えたことを基に、責任をもって行動できる性質・態度」のことです。これからの社会は、変化の激しい予測困難なものになり、直面する新たな課題の解決に向けて、他者と協調しながら主体的に取り組む生き方が必要になると言われています。

一方、内閣府が平成30年度に実施した「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」では、「私は、自分自身に満足している」という自尊感情に関する項目や、「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む」などの「主体性」に関する項目が、調査対象7か国（日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデン）の中で最下位で、これらには比較的強い相関関係がみられたそうです。

また、日本の若者には自尊感情と「自分は人の役に立っている」という自己有用感との間にも強い相関関係

があり、他の国にはみられない特徴なのだそうです。このことから、日本の若者は強い自己主張を控え、他者との関係性を重視しながら、考え、行動する傾向にあると言えます。これは、日本人のどの世代でもある程度共通した傾向なのかもしれません。

とは言え、「誰かに言われたから」ではなく、「自分で決めて」自分らしく主体的に生きていってほしいと願う保護者や教師も多いのではないかと思います。

立命館大学教授で医学博士の宮口幸治氏は、著書『どうしても頑張れない人たち～ケーキの切れない非行少年たち2～』の中で、「頑張れる」を支える基本として、「安心の土台」、「伴走者」、「チャレンジできる環境」の三つを挙げています。

「安心の土台」とは、本当に困っているときに助けてくれる存在です。保護者や教師などがこれに当たるでしょう。「伴走者」とは新しいことにチャレンジできるよう様子を見守り、それに寄り添う人のことです。保護者や教師などに加え、友達や先輩などもこれに当たると思います。「チャレンジできる環境」とは、家庭や学校などで自分の役割や新たな目標を決めさせ、実行させることなどでしょう。

さらには、頑張ったことに対して、最高級の称賛を与えることで、「主体性」が育っていくものと考えます。



豊かな体験活動を！

「思いきり、土にふれて、大きなお芋を掘ったり、お兄ちゃんを中心に、子どもたちだけでできるだけんばって、ご飯を炊いたり、とても良い経験ができました。どんぐり工作もとても楽しかったです。」

これは、11月に宮川野外活動センターでの主催事業に参加した子どもの感想の一部です。

「社会を生き抜く力」として求められる基礎的な能力（コミュニケーション能力、協調性等）を育むためには、様々な体験活動が必要であると言われていています。「子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、『もっと深く学んでみたい。経験したことの無いことにチャレンジしてみたい』などの意欲・関心や『社会のルールを守るべき』などの規範意識が高い」と調査結果にも表れており、生命や自然を大切にす心や他者を思いやる優しさ、社会性等を育む上で、体験活動は有効な機会であると考えます。

子どもたちが充実した体験活動を行うためには、周りの大人が体験活動の重要性を認識し、家庭・地域・学校等が連携協力して、体験活動にチャレンジする機会を意図的に提供することが大切ですが、実は各校区や地域の「あいご会」等、身近なところで多数の体験活動が催されています。

さあ、皆さん「一歩を踏み出しませんか」

冬の心豊かで元気あふれる「さつまっ子」を育てる運動

1 趣旨

年末年始にかけては、家庭でのだんらんや地域の伝統行事等への参加などを通して、青少年がふるさとへの理解を深めたり、新年の目標を立てたりする時期です。青少年が希望や目標をもちやすいこの時期に、家庭、学校、職場、地域及び関係機関・団体が緊密な連携を図りながら、「冬の心豊かで元気あふれる『さつまっ子』を育てる運動」を積極的に展開し浸透させることにより、市民一人一人が青少年健全育成に対する理解を深め、次代の鹿児島市を担う心豊かで元気あふれる「さつまっ子」を育成するために、次の運動が実施されます。

2 期間 令和5年12月15日(金)

～令和6年1月31日(水)

3 テーマ 伸びよう 伸ばそう さつまっ子

4 重点 明るい家庭づくりなど

5 実践事項

- (1) 豊かな心を育む家庭の教育力の向上
- (2) 学校や家庭、地域が連携した心の教育の推進
- (3) 青少年の主体的な地域活動や団体活動の促進
- (4) 青少年を守り育む環境づくりの促進
- (5) 関係機関・団体相互の緊密な連携
- (6) 冬休み期間中の生徒指導の充実
- (7) 交通事故防止の推進

